

会頭講演

現代における経絡病証の概念—胃經を中心として—

九州看護福祉大学教授

篠原昭二

鍼灸臨床において、経絡・経穴は必要欠くべからざる概念であることは、鍼灸臨床家であれば大多数が同意されるものであろう。しかし、診断・治療においてその定義は未だに明確にはされていないのが現実である。とくに、経脈を病んだときに出現する病証や治療可能な病症が何であるのかさえ明確にはされていない。

現在、最も重視されているのは、『靈枢』（経脈篇・第十）に記述される「是動病・所生病」が根拠とされていると思われる。

足陽明胃經を見ると、「是動ナレバ則チ洒洒トシテ振寒ス〔寒くてふるえる〕、善ク呻ル、数シバ欠スル、顔ハ黒イ。病ガ至レバ則チ人ト火トヲ悪ム。木ノ声ヲ聞ケバ則チ惕然トシテ驚ク、心ニ動ヲ欲スルヤ独り戸ヲ閉ジ牖ヲ塞ギテ処ル。甚シケレバ則チ、欲シテ高キニ上リテ歌ウ、衣ヲ棄テテ走ル、賁響、腹脹、肝厥ノタメデアル。云々（以下略）」であり、

是動病：振寒、よく呻る、欠伸、顔色が黒い、病が至れば人と火を悪み、木声を聞けば惕然として驚き、戸を閉じ窓を塞ぎ一人おる。甚しければ高きに登り歌い、衣を捨てて走る。腹脹。

所生病：高熱による意識障害、汗が出、鼻血、口歪み、口唇の傷、頸腫、喉痺、大腹、水腫、膝の腫痛、胸、股関節、大腿外側、足前面が皆痛む。足の中指が使えない。気盛んなれば体の前が熱く、胃が有余すれば消穀善飢、尿黄。気不足すれば、体の前が寒く、胃中寒すれば脹満。

以上が、足陽明胃經の病とされている。一方、素問／厥論／熱論／逆調論や靈枢／五邪篇／邪氣臟腑病形篇などの中にも、陽明經や胃の腑と関連する、病証が羅列されている。

日本の伝統鍼灸においては、臟腑と経脈については、理論的な区分は可能であるが、その病証については、時間経過とともに両者が混交して、明確に分けられなくなるものとする考え方がある。そうであるならば、種々の記述を一旦ばらばらに崩して、足陽明胃經の流注関連病証と内臓（臟腑）病証および精神症状に区分する方が理解を深めやすいものと思われる。

結論：足陽明胃經に関連する新しい病証概念

1. 経脈関連病証

- ①流注関連病証（足陽明經脈病証）：顔面紅潮、前頭（額）部のだるさ、上眼瞼の痙攣、上眼瞼の下垂、歯茎（上>下顎）の痛み、眼痛、鼻の乾燥及び鼻出血、口唇のできもの（瘡）かさつき、ひび割れ、口唇の歪み、咽喉痛（喉痺）、頸部の腫痛（扁桃腺炎を含む）、前胸部痛、膝関節水腫、足関節前面の腫痛、足背部の腫痛、下肢の

発赤、腫脹、疼痛、冷感。股関節、大腿外側、足前面が皆痛む。足の中指が使えない。

②経筋病証（足陽明筋病証）：頸関節痛、胸鎖乳突筋のひきつり感、腹直筋の痛み、背部の膈俞から三焦俞にかけての動作時痛、殿部の動作時痛、股関節前面の痛み、大腿前面の痛み、膝関節前面の痛み、下腿前面の痛み、足関節前面の痛み。

2. 臓腑関連病証

①臓腑病証（胃病証）：虐疾（寒熱往来：高熱あるいは悪寒）、腹部膨満、腹水、不眠、消穀善飢、腹脹（満）、腸鳴、腹痛、尿黄色。

②精神症状：意識朦朧して譫言、狂躁、癲狂、躁状態。

略歴

昭和53年9月 明治鍼灸柔道整復専門学校（夜間部）卒業・専任教員

昭和55年4月 明治鍼灸短期大学・助手（東洋医学教室）

昭和62年4月 明治鍼灸大学・講師（東洋医学教室）

平成2年11月 明治鍼灸大学・助教授（東洋医学教室）

平成15年4月 明治国際医療大学・大学院 教授（東洋医学基礎教室）

平成26年4月 明治国際医療大学を退職、九州看護福祉大学教授

◇著書

1. 篠原昭二：誰でもできる経筋治療、医道の日本社、2005年1月

2. 篠原昭二、和辻直、齊藤宗則：[図でわかる] 中医針灸治療のプロセス、東洋学術出版社、2006年6月10日

3. 篠原昭二：補完・代替療法「鍼灸」、金芳堂、2007年6月

4. 篠原昭二：ビギナーズ鍼灸HARIなび～初学者のための鍼灸臨床マニュアル～、ヒューマンワールド、2008年6月

5. 篠原昭二：臨床経穴ポケットガイド361穴、医歯薬出版、2009年6月

6. 篠原昭二、糸井啓純監修：緩和ケア鍼灸マニュアル、医歯薬出版、2014年5月

7. 篠原昭二、北出利勝監修：特殊鍼灸、医歯薬出版、2014年12月

8. 篠原昭二、和辻直：すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針、ヒューマンワールド、2017年3月

◇学会活動

全日本鍼灸学会、日本伝統鍼灸学会（副会長）、日本東洋医学会（鍼灸学術委員会委員長）、日本統合医療学会（認定師）、日本中医学会（理事）